

二つろみち・対談2

地球上の3分の1の酸素を

生み出しているアマゾンの熱帯雨林。

その大切な熱帯雨林が

危機に瀕しているという。

毎年、広島県の3倍の面積が消失し

異常気象、地球温暖化の

一因ともなっていると訴える

熱帯森林保護団体の南研子さん。

17年間で21回も

アマゾンに通い、インディオと

数ヶ月間、生活をともにしながら

アマゾンの保護にあたる。

「私たち日本人にとっても

他人ごとではないんです」と語る

南さんの熱くも自然なメッセージ。

心動かされるその勇気と活動の

源をお聞きしました。

亭主：吉田 正裕

宮島大聖院 座主

第二回 客人：南 研子

（プロフィール）

熱帯森林保護団体RFJ代表。

女子美術大学油絵科卒業。

1989年英国の歌手スティングの

「アマゾンを守ろう」ワールドツアーで

アマゾンの先住民リーダー、ラオーニと出会い、

同年当団体を設立。

以後、17年間で21回アマゾンを訪問。

生活をともにしながら支援活動が続けている。

著書に「アマゾン、インディオからの伝言」

「アマゾン、森の精霊からの声」がある。

片手は自分の幸せのために もう片方は誰かのために。

自然災害は、「根本を考え
なくてはいけない」という
自然の警鐘だと思おう。

吉田 南さんの「アマゾン、インディオからの伝言」を読ませていただきました。

アマゾンと聞いて、危険も伴うでしょうし、実際に困っている方の存在があるとしても、行って見ようとはなかなか思えないのですが、一度ならず21回も行かれています。いつてみようと思われたきっかけはどのようなものだったのですか。

南 成り行きですね。勢いというか（笑）

私は論理的な人間ではなく、直感的な人間なんです。最初は、とにかくどういこうとこるか見てみたいという好奇心の方が強かったんです。

きつかけは、遠いアマゾンの奥地から出てきたひとりの長老との出会いなんです。それも東京でお会いすることができ、私に道標をくださったかなと思います。でも、人のために何かをするといった大層なことではなく、成り行きではじめて、21回も行った。ご縁と出会いが私の信条なものですから（笑）。

でも、かつこいい言い方をさせていただくと、「素敵なプレゼントを天から頂いた」みたいに思います。

吉田 その、二十一回も足を向けさせるといふアマゾンの魅力とは何でしょう。

南 初めて行ったときは、違う星に来たような、そんな感じがしたんですね。

あれほどの大自然と出会ったこともなくて、ここには人間の承知才覚では計り知れない大きなエネルギー、それを神と呼んでもいいですし、精霊と呼んでもいいのですけれども、アマゾンには、そういうものが司っていると感じましたね。

そして、そんな中で、自然の法則に合わせてきちつと暮らしているインディオの人たち。脈々と、1万5千年も足ることを知り、自然を壊さず共生をしている人たちの生き方でしょうか。違う言い方をすれば、アマゾンの支援をしながら、人としての「心を取り戻す」「学ぶ」場所みたいな、そんな気がしています。

吉田 アマゾンの現状がどうなのか想像がつかないのですが。

南 私たちが行っている保護区は、アマゾンのほぼ中央部の日本の本州と同じくらいの地域なんです。始めのころは、彼らの文明そのままだったのですが、でも、最近最近代文明が少しずつ入ってきていますね。その保護区は一応国が保護しているのです

が、それでも貴重な材木を目当てに違法伐採が繰り返されています。アマゾンの熱帯雨林全体で考えると、毎年、広島県の3倍の面積が焼き払われ、大豆畑や牧場それに加えて石油の代替燃料エタノールの原料になるサトウキビ畑になっているんです。いままでにアマゾンの原始林の9分の1が破壊され消滅したといわれています。最近では、乾季に雨が降ったりと、アマゾンも異常気象の影響を受けているんです。近年宮島も自然災害がひどく、原始林にも大きな被害ができています。

専門家の方は、自然に倒れた木は自然に戻るからそのままにしておかなくてはいけません。原始林は、10年20年ではなく、200年、300年のサイクルで見ないといけないとおっしゃるんですが、最近は大きな災害のサイクルが早く、再生する前に次の災害が来てしまって、多分、このまま放っておくと元に戻らないような気がします。

自分は無力かもしれないけれども、希望はいつも持ち続けています。

南 上手く説明できないんですけど、地球には関係性があって、一つが大きく痛むとすべてに影響するのではないかと。

もしかすると、アマゾン同様、この宮島の自然の破壊も地球全体に影響するかもしれない。「地球はひとつの命として繋がっている」ということをしっかりと認識しないと、自然を再生させるのは難しいんじゃないでしょうか。

「世界的に気候が狂っているのはなぜなんだろう」「今までにない自然災害がなぜ起きたんだろう」というように「根本を考えなくてはいけない」と、自然が警鐘を鳴らしていると思うんです。

吉田 そのサインを私たちは上手く読み取れないですね。「考え直さないよ」と伝えてくれているのだと思いますけれど、直接自分に関係がなければ、なかなか解らないのでしょうかね。

南 片手は自分が幸せになることを考えていてもいいと思うんです。でも、もう片方の手は、自分以外のものに心を砕くっていうことを、一人でも多くの方がして下さったら、絶対に社会は変わると思うんですよ。

吉田 他人に対して思いやりを持たなければいけないということを、私たち僧籍にあるものが伝えていかなければいけないと思います。

現在の、物やお金が豊かなことが良いという社会。この状況が、大切な心の豊かさを見失わせ、親殺しや子殺し、いじめや自殺などにもつながっている気がします。

南 そうですね。アマゾンのジャングルの中から見てみると、私たち文明人といわれる生き方のほうが「ええー」みたいなことがいくつもありますね。アマゾンには、電気

もガスもお金もないけど、同時に、差別もいじめも自殺も犯罪もないんです。

吉田 現在の個人主義や消費することがいいという社会は、戦後60年をかけて創り上げられたものですので、急に変えることは難しいでしょうね。漢方薬を飲み続けるように、80年、90年という時間をかけて心豊かな社会に変えていかなければと思います。とはいうものの、多くの方は、「自分だけが変わっても駄目よ」とか「周りが動かなかつたら駄目よ」とつい人のせいにしてしまうこともあると思いますけれど。

南 「私がやっても手遅れだ」と思うか、何かあったとき「私からはじめよう」と思うか、ちよつとした物事のとらえ方ですよ。私は「自分は無力かもしれないけれども、10人、100人になると人の力は思わぬ良い方向に行く」という希望をいつも持ち続けています。

吉田 アマゾンに関しても、南さんたちの活動が影響を与えていると思います。広島にも熱心な賛同者の方が沢山いらっしゃいますし、想いが強ければ強いほど、伝わっていくのだと感じます。

南 私はパズルのひとつのピースでしかないと思うんですね。それぞれのピースで、一枚の「アマゾンの楽園を残す」という完成図が出来る。そんな完成図を心の中にしっかり持って、私がアマゾンのことをお話しているとき、「あなたも1ピースになってもらえませんか？」と、一つのピースになる種を皆さんに植えているんです。でも、その種は腐らせてもいいですよ、育ててもいいですよと、それぞれの自由なんです。

吉田 アマゾンの貴重なお話や、遠いアマゾンの出来事は日本と関係のないことではないことなど。知らないことを、そうやって伝えて頂くことによつて、「私たちは、地球に対して何が出来るだろうか」と考えさせられました。

南 「アマゾンのために、私は何ができますか」と皆さんよく質問をして下さいます。そんな時、私は「週8回出すごみを、8回にしたらどうですか」とお話しするんです。「アマゾンにはアマゾン、自分は自分」というのではなく、ひと繋がりになっているから、自分のごみを少なくすると、とりもなおさずアマゾンの森が残る。同様に、宮島の自然を残したいという一人ひとりの気持ちが、温暖化にストップをかける事にも繋がります。

吉田 広島にいても、アマゾンに何が出来るのか考えられることを、是非多くの方にも知っていただきたいと思えます。

本日は貴重なお話をありがとうございました。

2006年10月28日 宮島大聖院にて